

■ World Heritage Outlookとは？

- 『IUCN World Heritage Outlook』は、世界自然遺産に対する世界規模の評価で、世界遺産リストに記載されている全サイトの保全状況の展望を自然の価値の観点から評価したもの。(IUCN独自の取組みであり、世界遺産条約の公式なものではないが、IUCNの認識が集約)
- 評価結果は、オンライン上で入手可能となっており、全世界の結果と地域ごとの結果が定期的な報告書で示される。
- 初版は2014年に発行され、最新は第2版の2017年版(IUCN World Heritage Outlook2)。

＜評価方法＞ 世界自然遺産地域(サイト)ごとに以下の5段階で評価。

良好 Good	サイトの価値は良好な状態にあり、現在の保全措置を継続することで、将来に渡って価値が維持される可能性が高い。
やや懸念あり Good with some concerns	懸念事項はあるものの、新たに軽微な保全措置を講じることで、サイトの価値は長期的に維持される可能性が高い。
懸念大 Significant concern	サイトの価値は脅威にさらされており、劣化する兆候がある。サイトの価値を中期～長期的に維持・再生するため、意味のある追加的な保全措置が必要である。
危機的 Critical	サイトの価値は深刻な脅威にさらされ、劣化している。サイトの価値を短期～中期的に維持・再生するため、速やかに大規模かつ追加的な保全措置が必要である。速やかに保全措置がなされなければ、サイトの価値が失われる可能性もある。
Data deficient	情報不足

＜とりまとめの手順＞

Outlookは、以下の手順でとりまとめられる。小笠原諸島でも、今回の評価にあたり環境省を通じてIUCNへ情報提供を行った。



■ World Heritage Outlook 2 (2017.11発行) の結果

＜世界の動向＞

2017年の評価は、2014年から大きな変化はなく、各割合は下図のとおり。「Good」または「Good with some concerns」の評価を受けたサイトの割合を地域別に見ると北米が最も高く90%、アジアはオセアニアに次いで世界3番目で74%である。



- 顕在的脅威** 外来種、気候変動や観光客がすでに顕在化している最大の脅威。今後、地域規模、世界規模で保全にかかる労力が倍増することが示唆される。中でも、気候変動の影響は、急速に増大し続けている。
- 潜在的脅威** 道路、ダム、観光施設、鉱物・石油・ガスの採掘場等が大きな潜在的脅威。特に道路工事はここ3年間で急増しており、脅威が増している。
- 保護管理** 2014年以降、保護管理の効果が低減しており、脅威の増加する中、地域規模、世界規模ともに改善が望まれる。世界の好例を見ると、様々な脅威に打ち勝つためには、保護管理に対する投資や優先順位をつけた取り組みが重要と考えられる。

＜小笠原諸島の評価結果＞

2017年の小笠原諸島に対する評価は、2014年に引き続き「Good with some concerns」であった。項目別に見ると、「脅威」については高い脅威がある、「保護管理」については効果的との評価を受けた。

現在の状態と「価値」の傾向 **低懸念 傾向：安定**

- 小笠原の顕著な価値は、「現在進行中の生態的・進化的プロセス」、「高等植物及び無脊椎動物の多様性及びその固有性が高いこと」であり、今日まで比較的よく保護されている。
- しかし、これらの価値は侵略的外来種による強い脅威にさらされており、海洋島の脆弱な生態系は、増大する観光需要及び利用によりさらに脅かされる可能性がある。



全体的な「脅威」 **高い脅威**

- 外来種は、島々における現在進行中の生態的プロセスに対する極めて深刻な脅威である。
- ネコ、ヤギ、ネズミの根絶や影響緩和などの侵略的外来種への対策は、一定の成果をおさめており賞賛すべきものである。
- しかし、グリーンアノールやニューギニアヤリガタリクウズムシ、外来アリの脅威は依然として高いレベルにあり、継続的な努力が必要となっている。
- 島への来訪者や島間移動に対するバイオセキュリティ措置の欠陥も見られる。
- 来訪者の増加及び航空路の開設は主要な潜在的脅威であるものの、その脅威は今のところ低い。

全体的な「保護管理」 **効果的**

- 資産の構成要素は、原生自然環境保全地域、国立公園、国指定鳥獣保護区、森林生態系保護地域、天然記念物として保護されている。環境省、林野庁、文化庁は、小笠原諸島の保護に係る法律を有効に執行している。
- 資産の保護・管理のための管理計画及び行動計画は、地域連絡会議が促進する地域社会の参加とともに、環境省、林野庁、東京都、小笠原村により効果的に実行されている。
- 保護管理のための資金は、現時点では充分であるが、登録後にはかなり減少している。管理機関は、小笠原諸島の脆弱な生態系の脅威となっている外来種に対処するため、目覚ましいほどに尽力しているが、利害関係者は、外来種コントロールという課題の程度に見合うように、追加的資金提供を求めている。